

湯かけん



◀白鳥が飛来した冬の幌別川（『のほりべつ自然景観マップ』より・常盤静夫さん撮影）

特

集



たまご、うまれたよ。



鬼のたまご うまれたよ

登別市が市制施行30周年を迎えた昨年・西暦2000年は、20世紀最後の年であるとともに新たな世紀への扉を開く輝かしい年。

この記念すべき年を、21世紀に向けたまちづくりを市民自らが行う絶好の機会と考え、市内の47団体が参加して『市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会』が発足し、1年を通してさまざまな事業が行われました。

このふるさと登別に暮らし、登別を愛する人たちによって行われた記念事業を、各部会のスタッフの方に振り返っていただきました。

「鬼のたまご、うまれたよ。〜夢の孵る街…のぼりべつ」

たくさんさんの笑顔が未来へのメッセー

市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会が行ったイベントの広報や参加記念品などの制作を担当した広報・ツール部会。一人でも多くの市民に参加してもらい、参加者の心に感動を残そうと奮闘しました。



▲体感のぼりべつ冬イベントのポスター



▲情報紙『おにたま』

●広報・ツール部会
三澤由比子さん

未来や可能性が詰まっている鬼のたまご

市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会の事業は、4つの部会により『自然』と『ふれあい』をテーマに1年を通して行われ、広報・ツール部会は、事業を総称するキャッチコピー『鬼

のたまご、生まれたよ。〜夢の孵る街のぼりべつ』とロゴマークを考案。

「登別のシンボルとも言える鬼。この鬼には強さや可愛らしさを感じます。一方卵には、可能性や成長、変化、未来といったイメージを感じます。ですから『鬼のたまご』には登別の『未来』や

『可能性』が詰まっているんです」と三澤さん。

このキャッチフレーズやロゴマークを使いポスターやチラシをはじめ、市内に全戸配布したイベント情報紙『おにたま』を制作。また、ホームページによる情報発信も行われ、これには地元の日

の学生もボランティアで協力しました。

この記念すべき1年間の記録を残すため、CD-ROMや記録誌の制作に携わった三澤さんは、「自然とふれあいの中から生まれたたくさんさんの笑顔が未来に向けたメッセージになれば」と願っています。

部会の事業

- ポスター、チラシの制作。
- 情報紙『おにたま』の発行(6回)。
- ホームページ制作。
- 記録誌、CD-ROMの制作。
- 参加記念品などの制作。

プロフィール

みさわゆいこ (44)。若山町。広報・ツール部会長。のぼりべつ男女共同参画懇話会運営委員。登別市PTA連合会副理事。学校給食センター運営委員。

◎本人からひとこと

『鬼のたまご、生まれたよ〜夢の孵る街のぼりべつ』のキャッチコピーはプロに頼まず、素人だけで考えたものです。21世紀に向けたメッセージを表すこのコピーは、難産だっただけに、愛着もひとしおです。『おにたま』と略称して情報紙のタイトルにもしましたが、登別にとっても私にとっても宝だと思っています。



▶体感のぼりべつ夏イベントのポスター



▶メインポスター



「のぼりべつ市民大学」

登別の未来について学びました

人・自然・文化・産業など登別の特徴のある営みや活動をテーマとし、市内全域をキャンパスに、北海道内の大学などから講師を招き開催された『のぼりべつ市民大学』。一方通行の講義だけでなく、テーマに沿った体験学習などを通して、登別の可能性を考えました。



▲のぼりべつ市民大学の鈴木学長

●まなび部会

大澤昭三さん



▲講師を囲んで討論した『住んでいることが誇りに思える登別のまちづくり』



▲パネルディスカッションが行われた『福祉～ひとにやさしいまちづくり』

たのしみ・まなぶ・創造

『共に学びながらふれあいを』と開校したのぼりべつ市民大学。
「市民大学の最初の3テーマは、登別にふさわしい『鬼』『温泉』『雪』をあらかじめ決めていました。その後のテーマは、市民

大学の参加者からのアンケートも参考にしました。開催企画の双方向性ですね」と大澤さん。

夏休み期間中に開催された『登別の自然・昆虫の生態』では、講師やスタッフの指導のもと、カールス町で夜間に昆虫を観察したり、『海に求める街づくり・登別編』で

は、海や海岸、漁港を活用したまちづくりについて、参加者がグループディスカッションを行うなどユニークな展開を繰り広げました。

「残念ですが私が期待したほど参加者は多くなかったです。せっかくすばらしい講師に来ていただき、日ごろ聞くことの

できないテーマについて話していただいたのですから、もっと多くの市民に参加してほしいです。でも、千人を超える参加者それぞれが、受

講体験を今後の生活に生かしてくれれば」と大澤さんは望んでいます。

部会の事業

『のぼりべつ市民大学』の運営。平成12年1月から13年1月まで、1年間にわたり市内各地域で計12回開催された。参加者は延べ約1,300人。

プロフィール

おおさわしょうぞう (70)。登別町。まなび部会スタッフ。老人クラブ『鷺老会』会長。登別市老人クラブ連合会理事。鷺別2丁目町内会顧問。

◎本人からひとこと

講師との調整や、無料送迎バスの手配、会場の準備など、部長さんをはじめスタッフの方のご苦労は、それはそれは口では言い表せません。感動しました。

市民大学のほかにも、いろいろなイベントのお手伝いをさせていただいたおかげで、いい物を見ていい話を聞いた2000年は、私にとって充実した年でした。



▲夜間の昆虫観察が行われた『登別の自然・昆虫の生態』

▲最終回の講師は登別出身プロレスラー足立知也氏。テーマは『夢を孵す』



「体感のぼりべつ冬・夏イベント」

肌で感じたすばらしい登別の自然

山と川と海という自然に恵まれた登別。自然イベント部会では、市民に登別の自然を肌で感じてもらうおつと、「体感のぼりべつ」というアイデアを凝らした冬と夏のイベントを繰り広げました。が、それは自然との戦いでもありました。



▶観光遊覧船に乗って海から登別を観察した「海上遊覧散歩」



●自然イベント部会
松尾豪さん

▶「ほかほかウオーク」

自然の恵みと 厳しさを感じる

『冬の楽しさと厳しさを感じる2日間』をテーマに開催された『体感のぼりべつ冬イベント』は、冬としては穏やかな天候に恵まれ、多くの市民が会場を訪れました。

「スタッフは約1週間

前から、仕事を終えた夕方から夜遅くまで会場設営や雪像づくりなどの準備作業に追われました。強い北風と厳しい冷え込みにはみんな閉口しましたね。でも、イベントの参加者の笑顔が疲れを忘れさせてくれました」と振り返る松尾さん。

『体感のぼりべつ夏イ

ベント』は「登別海岸ものがたり」をテーマに行われた海のイベント。夏とはいえ、自然を肌で感じるイベントは自然との戦いも強いられました。

海岸を散策する『ほかほかウオーク』は台風の高波の影響でコースや内容を大幅に変更。また『海上遊覧散歩』も悪天

候の影響で何度も日程を変更し、関係機関との調整に追われました。

「イベントの運営に関しては全員素人の部会スタッフでしたが、たくさんの苦労の積み重ねでスタッフの絆はより一層強まりました。貴重な経験になりました」と松尾さんは話してくれました。

部会の事業

- 『体感のぼりべつ』
1. 冬イベント
2月26日(土)・27日(日)、旧札内小中学校周辺で星座観察や、おにたま雪像コンテスト、花火大会などを実施。
 2. 夏イベント
海岸を散策した『ほかほかウオーク』(7月9日(日))や『海上遊覧散歩』(8月20日(日))などを実施。

プロフィール

まつおたけし (40)。若草町。自然イベント部会スタッフ。測量会社勤務。登別商工会議所青年部副会長。

◎本人からひとこと

イベントの企画から準備作業、当日の進行、後片付けに至るまですべてを自分たち自身の手で行えたことを誇りに思っています。

全市的なイベントが、1年を通して行えたことは、大きな意義があると思います。

団体相互の連携ができ、今後、市内で行われるイベントはやりやすくなるのではないのでしょうか。



▲体感のぼりべつ冬イベントで行われた『おにたま雪像コンテスト』



▶体感のぼりべつ冬イベントで楽しむ親子

「のぼりべつ自然景観マップ」

ふるさとを包む自然のすばらしさ

20世紀最後の年のふるさとと豊かな自然、そして自然と調和した景観を発掘し、21世紀へのメッセージとして残したい、そんな思いで集まった『自然景観部会』のスタッフは、『のぼりべつ自然景観マップ』を完成させました。

市宮陸上競技場付近の白樺



●自然景観部会
富田常雄さん

朝日に染まる幌別川の白鳥



自然がいつぱい 散策マップ

記念事業のテーマの一つ『自然』をキーワードに、「登別の豊かな自然や自然と調和した景観を再発見して、そのすばらしさをこのまちに住む多くの方に知っていただくため一つのマップにまとめ、21世紀へのメッセージにしたかった」と話す自然景観部会の富田さん。

一昨年10月から情報提供や写真の募集を始め、寄せられた写真や部会のスタッフ自らが撮った写真約800点の中から、172点

を選びすぐり自然景観マップに掲載しました。

作られた自然景観マップは、登別・幌別・鷺別の3地区。各地区の詳細図には、市街地の情報や主な施設、自然景観のポイントが一目でわかるようにレイアウトされているほか、各地区お勧めの景観探索コースを掲載。所要時間や行程も記載されています。

「このマップは2000年のふるさとと姿です。あらゆる年代の方に活用していただけるようわかりやすい解説をしたつもりです。このマップが自分の住んでいるまちの自然を再発見し、多くの市民が自然に関心を持っていただくきっかけになれば」と富田さんは、出来上がったマップを見つめながら話してくれました。

部会の事業

- 『のぼりべつ自然景観マップ（登別・鷺別・幌別3地区合計33,000部）』の制作。
- 『体感夏イベント・ぽかぽかうオーケ』のコースマップ制作など。

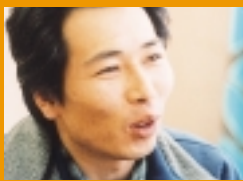
プロフィール

とみたつねお（38）。白老町。自然景観部会スタッフ。建設会社勤務。登別商工会議所青年部広報委員会副委員長。

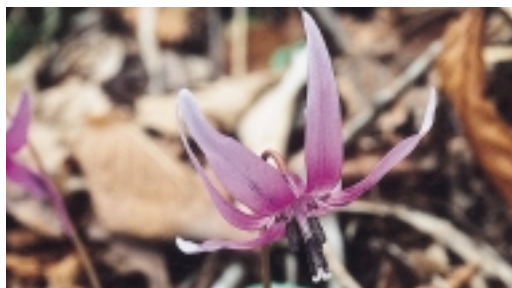
◎本人からひとこと

幌別地区を担当しましたが、現地調査では新たな発見がたくさんありました。特に印象に残ったのが岡志別川上流の滝や、幌別川河口から見た来馬岳やオロフレ山。

掲載した以外にもっといい景観があると思います。このマップのスペースに書き込んで、オリジナルマップに仕上げ活用していただければうれしいですね。



▲片倉町の高台から見た幌別ダムとカムイヌプリ



▲春を告げる野草『カタクリ』（※景観写真はいずれも『のぼりべつ自然景観マップ』より）

◎本人がらひとこと

参加した方がいろんなことにふれあって、何かささやかな感動を持って帰ることができたと思いつつながら準備しました。初日の雨で、思うようにはものごとが運ばないのだと感じましたが、2日目は天候に恵まれ、プログラムの一つひとつが大成で終わっていくのを見て、それまでの苦労を忘れてしまうほどうれしくなりました。



部会の事業

『ハートtoはあとinのぼりべつ』(9月2日(土)・3日(日)、川上公園で開催)。野外ライブ、こども広場、太鼓演奏、健康まつり、よさこいソーラン、野外劇などさまざまな催しが行われた。参加者は2日間で約11,000人。

プロフィール

あらかみほ (26)。驚別町。ふれあい部会副部長。会社員。『のぼりべつ豊水まつり』のボランティア・スタッフを平成11年から2年連続で務めている。

●ふれあい部会
荒木美保さん



◀市内4チームが参加したよさこいソーラン

▼オープニングセレモニーに参加した幼稚園児



「ハートtoはあとinのぼりべつ」 夕空に響きわたる美しいハーモニー

川上公園の広いスペースを使って参加した人に感動が残る『とき』を創出しようといわれた『ハートtoはあとinのぼりべつ』は、計画段階から2000年の最大イベントとして位置付けられ、さまざまな催し物が行われました。

1万人を超える
市民がふれあう

『ハートtoはあとinのぼりべつ』は『ふれあい』をテーマに、市民や各種団体からアイデアをいただき、その思いや願いを抽出・分類してプログラムにしました。約1年かかりましたね」と振り返る荒木さん。

スタッフが一生懸命準備し、特に開催前の数日間、寝る時間を惜しんで会場設営などに奔走し

ましたが、初日はあいにくの雨。時折雨脚が強くなり、残念ながら中止になったプログラムもありました。しかし、翌日は、一転して晴天に恵まれ、2日間で1万人を超える大勢の方がイベントを楽しみました。

会場が夕闇に包まれるころ、プログラムの最後を飾る登別初の創作野外劇『パラピッツのやつほほう』が上演され、市長をはじめ市民約240人が出演。フィナーレでは出演

者と観客が『翼をください』を合唱。川上公園の夕空に大きな歌声が響きわたりました。

「登別で初めて、各種団体・行政などが、一つの目的に向かって力を出したこのイベント。これからのまちづくりに役立つのではないでしょうか」と荒木さんは結んでくれました。



▲(上から)野外ライブ、野外劇、フィナーレ

▶オープニングパレード



ホームページ@ふるさと

Noboribetsu

まちづくりの決意新たに

～市制施行30周年記念式典～



▲バンド演奏などが行われた記念式典

平成12年8月1日(火)、市民会館で市制施行30周年を祝う記念式典が、関係者など約600人が出席して行われました。

式典は、北海自衛太鼓や熊舞、登別温泉小学校オニッコマーチングバンドの演奏などを

交えながら進められ、上野市長の式辞や来賓の祝辞に続き、東京登別げんきかいの高田会長から市長に記念品が贈呈されました。

最後に、市民を代表して松山市議会議長が、21世紀のまちづくりに向けた決意表明を行い、会場から盛大な拍手が送られました。



▲記念品目録を贈呈する東京登別げんきかい高田会長

のぼりべつ

幌別駅前にモニュメント

～中央町地区商店街近代化事業終了～



▲整備が終了したJR幌別駅前

登別中央ショッピングセンター『アーニス』の建設をはじめ、らいは公園の新設、道路整備など、平成3年から総額90億円を投下して進められていた中央町地区の商店街近代化事業が、JR幌別駅西口の駅前広場の整備

をもって終了しました。

平成13年3月13日(火)に開催された、登別市商店街近代化推進協議会などの主催による『JR幌別駅前広場整備完成記念式典』では、新たに設置されたモニュメント『未来・はじまる』(制作:伊藤隆道東京芸術大学教授)のテープカットなどが行われ、駅前広場の完成を祝いました。

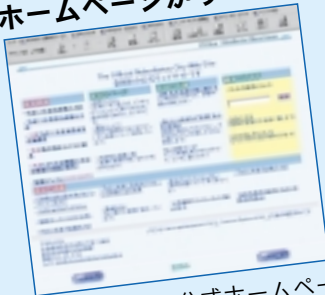


▲モニュメントのテープカット

のぼりべつ

登別の最新情報を

～市のホームページがリニューアル～



平成12年10月、登別市の公式ホームページを一新し、検索しやすく見やすいホームページに改善しました。市の最新情報をはじめ、各種行政サービスの案内などのほか、市内の企業や団体などへもリンクされています。

また、ホームページを閲覧した方が自由に意見や感想を投稿できる『掲示板』を設けていますので、ぜひご利用ください。

●ホームページアドレス
<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp>

Noboribetsu

鬼文化を全国に発信

～全国鬼サミット・鬼の童話コンテスト～



▲鬼のまちの連携を強めた『第7回全国鬼サミット』

『鬼』にゆかりのある市町村などが一同に会し、情報交換や交流を深め、観光振興を図る鬼サミット。

平成12年8月27日(日)、市制施行30周年を記念し、鬼サミット発祥の地である登別市で『第7回全国鬼サミット』が開かれ、全国から関

係者約100人が出席し、鬼のまちの連携を強めました。また、全国鬼サミットの開催にちなみ、新しい鬼文化の創造や登別のPRなどを目的に『第1回のはぼりべつ鬼の童話コンテスト』が行われ、全国から452点の応募がありました。このコンテストで優秀賞と奨励賞を受賞した作品は、市のホームページに掲載されていますのでぜひご覧ください。